

『ボケ一一〇番』講演会

お年寄りら360人が聴講

今、急速な高齢化社会の進行で寝たきり老人対策や地域福祉、在宅福祉の充実が強く望まれていますが、五月十一日、市老人クラブ連合会主催の老人問題講演会が社会福祉センターで開かれ、市内各地からお年寄りら約三百六十人が集まりました。

「ボケ一一〇番」と題して、老人問題の権威者として有名な京都



市柳川病院長の早川一光氏が講演。病院長として、また京都市中央老人福祉センター相談医としての立場から、お年寄りの生き方やぼけない方法などについて、ユーモアを交えながら約二時間半にわたって話し、集まった人たちは笑いのなかにも熱心に聞き入っていました。

講演内容は——
高知県はお年寄が多い所ですが、それはすばらしいことです。それだけ丈夫で長生きすることです。ですから全国に誇っていいと思います。

人間は自分一人では絶対に生きられない動物です。たくさんの人たちの支えによって生きてきたのです。老人クラブの仕事は、お年寄りとお年寄り、お年寄りとお若い人との、うまくいくような考え方をみんなにきちんと教える努力をすることだと思います。

ほけない方法などについて
ユーモアを交えて講演

人間は死ぬときには、だれかのお世話にならなければなりません。若い人に対してすなおな気持ちで接してください。

皆さん、死ぬときには自分の家の畳の上で息を引き取ってください。そして、その姿を子供や孫に見せてください。それが教育です。畳の上で大往生とはこのことです。どんなに病院が完備されて、お医者さんや看護婦さんが親切でも、しよせん他人の親切です。自分の家が一番いいんです。そのために

は、まず大きな病気をしないこと。尊敬され、愛される年寄りになること。小さいときから親を大事にし、年寄りを大切にすることを子供にすることです。

最後にぼけずに生きる方法とは、一番に大事なことは何歳になっても物事に感動すること。いつも感謝の気持ちをすぐ伝える心を持つこと。本や新聞を読んだり、手紙や日記、絵を書いたりして手を使い、頭の訓練をすること。あれをやるう、これをやるうと予定をた

くさん持つこと。体を動かし自分がぼけない方法だと思つて人のお世話をする。辛抱、忍耐すること。笑うことです。

福祉とは、老人病院や老人ホームをいっぱい造つたりすることではなく、一軒一軒の家の中で年代を越えて、お年寄りの心と若い人の心とがびしりと一致すること。お互いに足りないところをカバーし合おうとする人間的な結び付きが福祉だと思います。

稲生小Aが優勝 火鎮祭の相撲大会

恒例の火鎮祭相撲大会が五月十八日、市立相撲場で開かれ、大勢の相撲ファンが訪れました。

午前の県下中学校選手権大会に続き、六チームが参加した消防署(団)対抗相撲では、南国消防署(岡田、京馬)が団体三位、個人

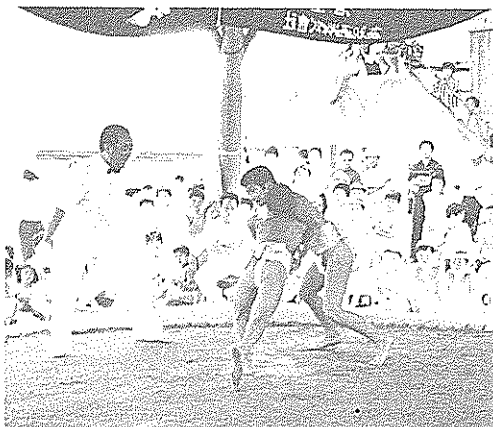
でも同消防署の岡田直人さんが、準優勝を果たしました。

午後からは、お待ちかねのわんぱく相撲。市内八小学校から二十六チーム、約百人の力士が参加。お父さんやお母さんの声援の中で熱戦が繰り広げられました。

なお、わんぱく相撲の結果は次の通りです。

団体①稲生小A(西川澄、草道昭、大前寛直)②十市小A(武市敏、池上透、大家信二)③十市小B(土居裕滋、土居秀行、鍋島久也)個人④四年の部①竹内誠治(大篠小)②小松弘祐(稲生小)③土居裕滋(十市小)④五年

の部①永田昌徳(長岡小)②草道昭(稲生小)③吉本圭介(大篠小)④六年の部①池森剛(稲生小)②田所裕司(日章小)③大家信二(十市小)



豆力士の熱戦に盛んな拍手が送られた